

シリーズ ⑤③

我が家の家庭教育

谷中林 緑

心の通う親子でありたい

長男誕生、大きな産声に丈夫で生まれたことを知り、五体満足であることにホッとし、寝顔を見て、責任の重さを痛感したのは、つい先日のような気がします。

我が子の幸福を願って、先ず健康第一、そして躰はなるべく早い内に、読書好きな心

豊かな子供に……等々思い巡らし、私なりの理想を持ったものでした。

しかし、「言うは易し、行なうは難し」です。どちらかという仕事優先しがちで、

思いの半分も適えられず、親の都合ばかりを押しつけ、子供の不信を招いたことも多々ありました。仕事あつての子供なのか、子供あつての仕事なのか。考えさせられます。

子育て二十余年になります。が、振り返ってみると、どうしても反省が先に立ちます。そして、忘れていけないのは家族の協力だと思えます。多

少の事はありましたが、おかげで現在、心身共に健康であることに幸せを感じています。

我が家では既に、長男長女が親元を離れ、今は二男と母、そして私達夫婦の四人で暮らしています。

偶に帰って来た時は、積もる話に花が咲き、以前のようになりす。特

に二男は大喜びで、レスリングやら何やら、夜の更けるの



も忘れて興じています。兄弟仲の良いのが、我が家の自慢です。偶に会うせい、二人の一寸した言動に大人になつたのを感じ、嬉しく思うこともあります。

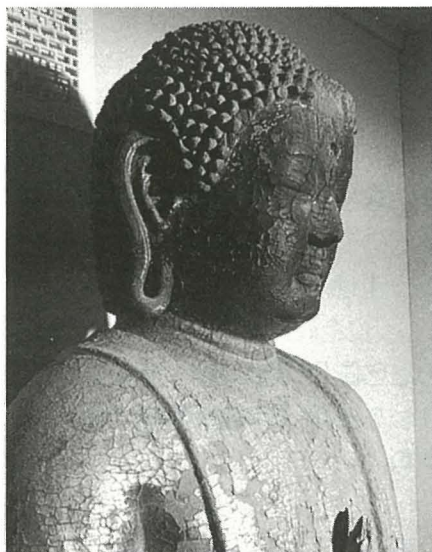
中学生の二男は、人並みに反抗期です。自立への第一歩、成長の過程だと思

いますが、反抗の表れは、これまでの子供との関り方にあるといえます。子供と共に振り返って、改める

べき所を見つけることから始めました。何といっても悩み多き年頃です。話し合いの場を多く持つようにし、安心して、心を癒せるような家庭作りを心がけております。

三人とも、それぞれ自立への道を一步一步、歩き始めましたが、これから先も親の助言が必要な時が多々あると思えます。その時の為に、めまぐるしく変貌する社会に取り残されないう学んでいかなければなりません。そして、いつまでも話し合える心の通った親子でありたいと思っております。

木造薬師如来立像 古屋



福秀寺の薬師如来像は、像高163cm、カヤ材の一木造りで、像全体にうるし塗りの跡があります。

面奥、軀奥ともに深く、量感あふれるY字形の衣ひだなどに見られるものは古様であり、一木造りや彫眼の構造から、鎌倉時代の制作と考えられます。

昭和29年3月に県の有形文化財に指定されました。

珍しいソテツの花

—宝米 土屋重雄さん宅で開花—



茶黄色で長さ60センチほどの雄花

宝米の土屋重雄さん宅でソテツの花が咲きました。ソテツは暖かな地方でしか開花はしないといわれており、静岡以北での開花は珍しいようです。土屋さんは現在八十六歳十五歳の時から日記を書いておられ、その日記をたどったところ、六十年前にも一度咲いたとのことでした。

ひかりまちの風土記 ⑧